

中部様式  
(調査事業)

令和3年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要 (全体)

# えちぜん鉄道活性化連携協議会

平成22年10月4日設置

調査事業 (計画策定) 令和4年3月 地域公共交通計画策定予定

## <交通圏の特性>

- ・ えちぜん鉄道交通圏：福井市、勝山市、あわら市、坂井市、永平寺町、大野市の6市町
- ・ 圏域人口：46万人（2015年：国勢調査）⇒39万人（2040年：人間研推計）
- ・ 沿線施設：恐竜博物館、スキージャム勝山、大本山永平寺、越前大野城、東尋坊、芦原温泉等の観光施設、大学や高校などの教育機関、医療機関、大規模企業、商業施設等

## <地域公共交通の現況>

- ・ えちぜん鉄道勝山永平寺線は福井駅から永平寺・勝山方面へ向かう27.8km、三国芦原線はあわら・坂井方面へ向かう25.2kmを運行しており、福井駅でJR北陸本線・越美北線と接続、田原町駅で福井鉄道福武線と接続している。
- ・ 路線バスは、福井駅等の主要駅を拠点として放射線状に83路線が運行している。

## <地域公共交通の課題>

- ・ 中心市街地における高齢化と人口減少、商業・業務移設の空洞化への対応 等

## <えちぜん鉄道交通圏地域公共交通網形成計画における基本方針>

「多核連携によるネットワーク型のコンパクトシティ」により、移動の利便性が高く、クルマに頼り過ぎなくても暮らしやすいまちづくりや、周遊性の高い魅力ある広域観光のまちづくりを目指す。

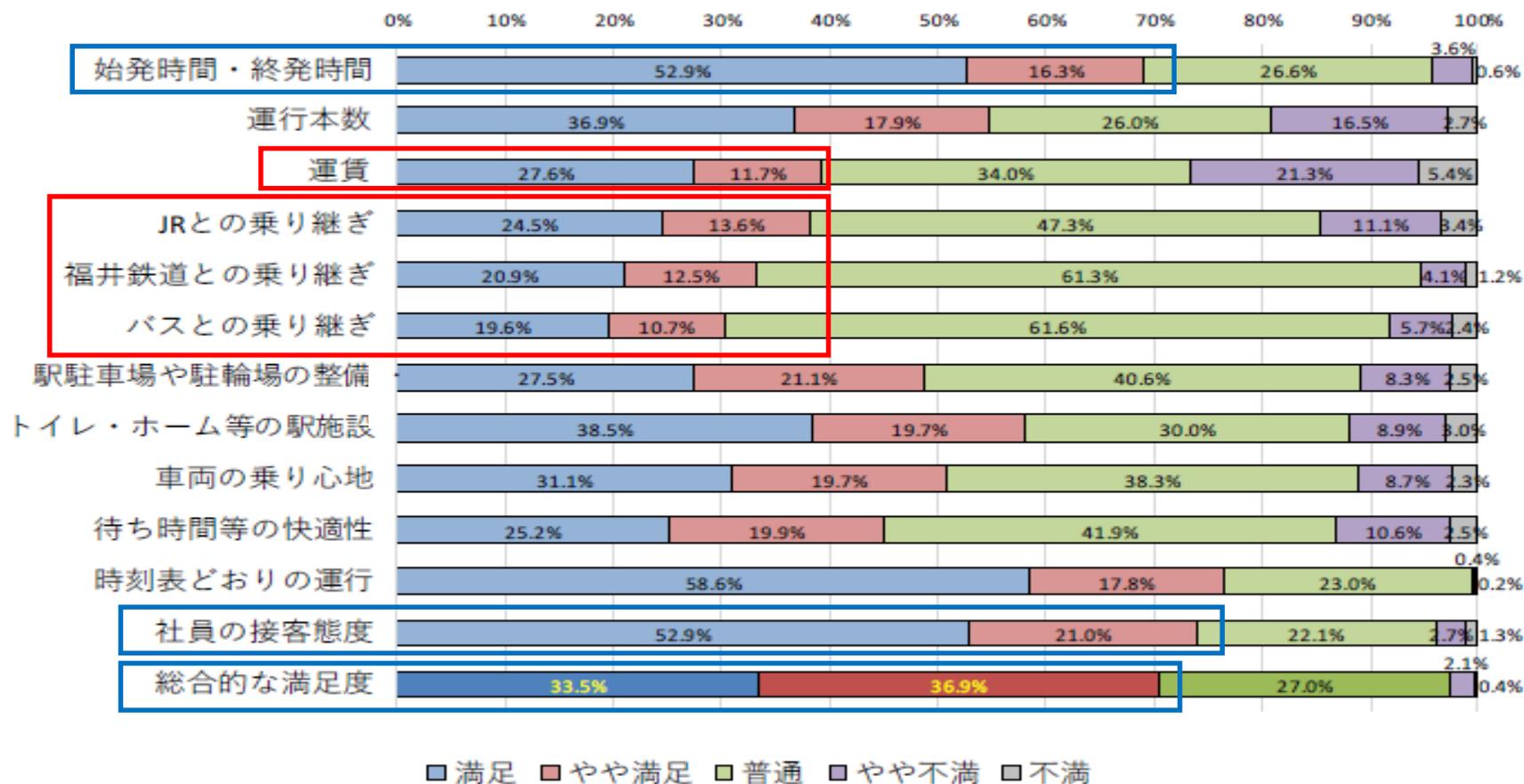


- ・ 現行計画（えちぜん鉄道交通圏地域公共交通網形成計画）に記載している数値目標の達成状況を調査するため、アンケート調査を実施
- ・ 次期計画（えちぜん鉄道交通圏地域公共交通計画）の策定に向けた公共交通に関する調査を実施

表：各種調査の実施内容

調査種別	調査目的	調査結果
えちぜん鉄道利用者アンケート調査	現行計画の数値目標に「えちぜん鉄道利用者の満足度」を設定しているため、現状の満足度等を調査する。	えちぜん鉄道の利用者を対象とし、調査票を1,500票配布し、504票回収（回収率33.6%）した。
公共交通に関する調査	交通圏の人口、交通流動、沿線の主要施設、各公共交通機関の利用状況などのデータを収集し、計画策定の基礎データとする。	各種データを収集し、計画の資料編に記載した。

### <えちぜん鉄道利用者アンケート調査の結果>



- ・ 前回調査比較では、項目別の傾向は変わらず、共通して満足度が上昇。
- ・ 「時刻表どおりの運行」「社員の接客態度」「始発時間・終発時間」の満足度が高い。
- ・ 「JR・福井鉄道・バスとの乗り継ぎ」「運賃」の評価が低い。
- ・ 総合的な満足度（「満足」「やや満足」の合計）は、70.4%となり、前回より5.4%上昇。

⇒総合的な満足度は高いが、今後も利用したくなる鉄道を目指してサービスの向上を目指す。

### ＜えちぜん鉄道交通圏地域公共交通網形成計画の評価指標達成状況＞

評価指標	基準値	目標値	現況値:H30 値 ( ):R2 又は R3 値	評価	備 考	
<b>■目指すべき公共交通の将来像の指標</b>						
1	公共交通の利用者数	743 万人/年	748 万人/年	783 万人/年 (547 万人/年)	達 成	えちぜん鉄道利用者数が堅調に増加し、H27～H30 は目標を上回る
<b>■目標 1 地域の交通として利用したくなる公共交通の実現</b>						
2	新駅の利用者数	—	60,000 人/年	39,125 人/年 (30,252 人/年)	未達成	隣接駅である福井口からの転換利用者数が想定を下回ったことなどから目標の 7 割弱に留まる
3	相互乗入れによる利用者数	31,496 人/年 (連絡乗車券利用者数)	153,000 人/年	157,998 人/年 (120,277 人/年)	達 成	沿線の高校への通学定期利用者が増加した
4	えちぜん鉄道利用者の満足度	65%	85%	70.4% (R3)	未達成	前回計画策定時を上回ったものの、目標を下回る
<b>■目標 2 安全・安心に利用できる公共交通の実現</b>						
5	交通事故の減少数	1,529 件/年	1,376 件/年	907 件/年 (552 件/年)	達 成	経年的な減少傾向にあって件数は半減し、目標を達成
6	故障等部内原因による鉄道の遅延障害件数	2 件/年	0 件/年	4 件/年 (8 件/年)	未達成	電気施設や車両による障害要因が増加

### ＜えちぜん鉄道交通圏地域公共交通網形成計画の評価指標達成状況＞

評価指標	基準値	目標値	現況値:H30 値 ( ):R2 又は R3 値	評価	備 考	
7	鉄道とバスが接続する 主要拠点駅周辺（半径 500m圏域）の人口	16,777 人	16,777 人	15,519 人 (R3)	未達成	交通圏全体での人口減少率を 上回る約 7%減少
8	鉄道とバスが接続する 主要拠点駅周辺（半径 100m圏域）の生活利 便施設の立地件数	44 施設	44 施設以上	42 施設 (R3)	未達成	施設数は概ね同数だが、新設 (更新)と閉店があった
9	レンタサイクルの 利用者数	14,000 人/年	16,800 人/年	13,098 人/年 (8,233 人/年)	未達成	概ね横ばいで推移し、令和 2 年 度に大幅に減少
10	企画列車・企画バスの 合計本数	13 本/年	15 本/年	20 本/年 (7 本/年)	達 成	えちぜん鉄道、京福バスによ るもので、観光施設と連携し た路線を運行
■目標 4 住民・行政・事業者が協働で利用促進する公共交通の実現						
11	サポート会等の市民 活動の活動回数	45 回/年	50 回/年	50 回/年以上	達 成	駅の清掃や花壇の維持管理 等、自主的に実施いただく活 動が増加
12	鉄道を使った遠足利 用者数（団体数）	146 団体/年	146 団体/年	165 団体/年 (47 団体/年)	達 成	平成 30 年度には利用団体数が 目標を上回る

- ・ 12評価指のうち、目標を達成したのは6指標。
- ・ 「指標7」「指標8」については、今後、『コンパクト・プラス・ネットワーク』の考えに基づき、駅周辺に人口や生活利便施設の立地を誘導するまちづくりを進める必要がある。

- 次期計画（えちぜん鉄道交通圏地域公共交通計画）における目標達成のための施策体系  
 目指すべき将来像の実現に向けて取り組むべき目標を4つにまとめ、それぞれにおいて  
 実施すべき具体的な取組み（55施策）をとりまとめた。

《目指すべき将来像》

車と比べても『選ばれる移動手段』になる



■目標1 地域の交通として利用したくなる公共交通の実現

利用環境の向上	駅施設の整備改善、新しい生活様式への対応、 運賃支払いの効率化（キャッシュレス化、MaaS導入）
駅やバス停へのアクセス向上	フィーダー交通の整備・充実、持続可能な運送サービスの提供
交通機関の乗り継ぎ利便性向上	列車運行の改善

■目標2 安全・安心に利用できる公共交通の実現

安心・安全を支える 鉄道施設づくり	鉄道施設の維持、大規模災害への対応、 経営強化に向けた取組み
信頼できる運行を支える鉄道施設づくり	大雪に備えた除雪体制の構築
バス路線の維持	バス路線維持への行政支援

■目標3 車に頼り過ぎないまちづくりや広域観光と連携した公共交通の実現

駅を核としたまちづくり	駅周辺への都市機能集約、駅周辺の土地利用誘導
観光・地域活性化施策との連携	観光列車の導入、県外観光客の利用促進
情報発信の連携・強化	駅・車内での観光情報発信

■目標4 住民・行政・事業者が協働で利用促進する公共交通の実現

乗る運動・利用促進	自治体による利用促進、沿線事業所への利用働きかけ
地域住民との連携	サポータークラブの強化、地域とのネットワークの構築

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

令和4年1月14日

協議会名: えちぜん鉄道活性化連携協議会

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
【事業内容及び結果概要を記載】	A・B・C 評価 【事業が適切に実施された(されている)かを記載。適切に実施されなかった(されていない)場合には、実施されなかった事項及び理由等記載】	【補助申請を行う補助対象事業名、事業内容、実施時期等を記載】
<p>「えちぜん鉄道交通圏地域公共交通計画」を策定するため、これまでの取組みの評価・検証、課題の整理、目標達成のための施策のとりまとめ、地域特性及び地域公共交通状況調査、えちぜん鉄道利用者アンケート調査などを行った。</p> <p>○これまでの取組みの評価・検証          ・現行計画に記載した55施策のうち実施済が45施策、一部実施が10施策だった。</p> <p>○課題の整理          ・地域特性や公共交通の状況から20個の課題を整理した。</p> <p>○目標達成のための施策のとりまとめ          ・4つの目標に体系化し、実施すべき55施策をとりまとめた。</p> <p>○地域特性及び地域公共交通状況調査          ・計画策定に必要な人口・交通流動等の地域特性、えちぜん鉄道・路線バス等の地域公共交通状況調査を行った。</p> <p>○えちぜん鉄道利用者アンケート調査          ・えちぜん鉄道の利用者を対象に満足度やコロナによる利用回数の変化等について調査を行った。</p> <p>⇒(結果概要)満足度は65%(H23年度)から70%(R3年度)に上昇した。コロナによる利用回数の変化は78%が変化なし、12%がテレワークや外出自粛とにより利用回数が減ったとの回答だった。</p>	A 事業は適切に実施されている	<p>■地域公共交通調査事業(地域公共交通協働トライアル推進事業)</p> <p>■えちぜん鉄道交通圏地域公共交通計画の策定に係る調査事業</p> <p>■令和3年6月24日～令和4年3月25日</p>

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和4年1月14日

協議会名:	えちぜん鉄道活性化連携協議会
-------	----------------

評価対象事業名:	地域公共交通調査事業(地域公共交通協働トライアル推進事業)
----------	-------------------------------

地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>「えちぜん鉄道交通圏地域公共交通網形成計画」は、目指すべき公共交通の将来像(「車と比べても『選ばれる移動手段』になる)」の実現を目指し、計画期間を平成27年度から令和3年度までとして策定した。</p> <p>今年度、現行計画の基本方針等を踏襲し、「多核連携によるネットワーク型のコンパクトシティ」により、利便性が高く、クルマに頼り過ぎなくても暮らしやすいまちづくり、周遊性の高い魅力ある広域観光のまちづくりを目指すために、次期計画を策定する。</p>
-----------------------------	--

### ＜地域公共交通計画の評価等結果の様式＞

えちぜん鉄道交通圏地域公共交通網形成計画の評価等結果（平成27年9月～令和4年3月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
公共交通の利用者数：743万人/年（H27年度）→748万人/年（R3年度）	福井鉄道との相互乗入れ、新駅の設置、LRVの導入などの各種施策の実施	交通事業者の利用者数データ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・783万人/年（H30年度）</li> <li>・547万人/年（R2年度）</li> <li>・えちぜん鉄道の利用者数が堅調に増加し、H27～H30年度は目標を上回ったが、新型コロナウイルス感染拡大により、R2年度は目標を大きく下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染者数減少に伴い、公共交通の利用者数は、徐々に回復していることから、次期計画においては、新型コロナウイルス感染症拡大前のH30年度の利用者数まで回復させることを目標とする見込み。</li> </ul>	次期計画においては北陸新幹線福井開業による県外観光客の利用促進策等を実施
新駅の利用者数：0人/年（H27年度）→60,000人/年（R3年度）	新駅（まつもと町屋駅）の設置	えちぜん鉄道の利用者数データ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隣接駅からの転換利用者が想定を下回ったことから目標を下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新駅設置から5年以上経過していることから、次期計画においては目標として設定しないが、今後も駅周辺住民等に対する利用促進を図っていく。</li> </ul>	
相互乗入れによる利用者数：31,496人/年（H27年度）→153,000人/年（R3年度）	福井鉄道との相互乗入れ	交通事業者の利用者数データ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・157,998人/年（H30年度）</li> <li>・120,277人/年（R2年度）</li> <li>・沿線高校の通学定期利用者が増加したことにより、目標を上回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染者数減少に伴い、公共交通の利用者数は、徐々に回復していることから、次期計画においては、新型コロナウイルス感染症拡大前のH30年度の利用者数まで回復させることを目標とする見込み。</li> </ul>	沿線の事業所及び高校への電車利用の働きかけを継続
えちぜん鉄道利用者の満足度：65%（H23年度）→85%（R3年度）	福井鉄道との相互乗入れ、新駅の設置、LRVの導入などの各種施策の実施	えちぜん鉄道利用者数に対するアンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・70.4%（R3年度）</li> <li>・前回アンケートの数値を上回ったものの、目標は達成できなかった。項目別の評価では、社員の接客態度や始発・終発時間の評価が高く、他公共交通機関との乗継ぎや運賃に関する評価が低かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次期計画では、目標値を75%に設定し、今後も利用者の意見を聞きながら利用しやすい環境向上に努める。</li> </ul>	次期計画期間では駅施設の整備改善等を実施

（記載に当たっての留意事項）

- ・ 本様式中、表題の「（〇年〇月～〇年〇月）」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- ・ 毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「－」と記載して下さい。
- ・ 一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- ・ 月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果（議事録等）等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- ・ 地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料として添付して下さい。